



第2章

# アブラハム

紀元前 約1921年

銅像は真実の神ではない、と信じる、アブラハムという男がいた。神は創り主であり、偶像を通して神を礼拝することは出来ないと思っていた。

神は彼に語りかけられた。  
「アブラハム、あなたは、この偶像礼拝の町を去るのだ。あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民の父とし、あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族はあなたによって祝福される。」

アブラハムこそが、罪と死を打ち砕く約束の御子なのであろうか？

アブラハムは、かつてハムの息子が移り住んだカナンカナンの地、今でいうパレスチナへと行き着いた。そこで神は彼に語られた。

アブラハムよ、この土地のはじからはじまで、くまなく歩くがよい。あなたの子孫に、わたしはこのカナンカナンの地を与える。わたしは、あなたの子孫を、地のちりのように、数えきれないほど増やそう。

アブラハムは、その声が神のものだと確信していたので、自分がどこへ行くのかわからないまま、それでも神に従う道を選んだ。彼が分かっていたことは、偶像礼拝を離れ、生ける神に従っていく、ということ。神を信頼するためのさらなる証拠集めは必要なかった。彼は、甥のロトも連れて旅路に出た。

サラ、神は、おまえが長いこと待ち望んだ子供を授けてくださるとおっしゃった。

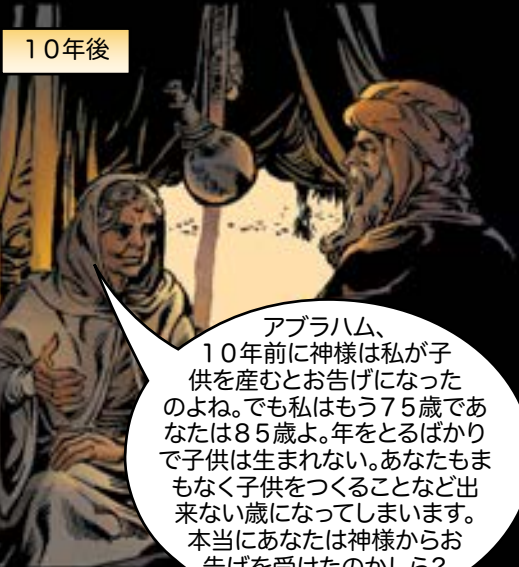
私が子供に恵まれなかったことはあなたもご存知のはず。出産適齢期はとうの昔に過ぎてしまっています。どうして子供を持つことが出来ましょう？

神がそう、おっしゃったのだよ。



アブラハムは、その土地を旅する中で、時折立ち止まっては祭壇を築き、血の犠牲を神にささげた。かつてアベルがそうしたように。信仰によって、アブラハムも自分が死の報いを受けるべき罪人であることを認識していたのだ。

ほふられた子羊が彼の罪を取り除くことはできないが、神はアブラハムの信仰をご覧になられ、彼の罪をお赦しになられた。



10年後

アブラハム、10年前に神様は私が子供を産むとお告げになったのよね。でも私はもう75歳でああなたは85歳よ。年をとるばかりで子供は生まれません。あなたももなくて子供をつくることなど出来ない歳になってしまいます。本当にあなたは神様からお告げを受けたのかしら？



確かに神様はそうおっしゃったのだよ。どうしてこれほど長く待たなければならないのかは分からないが、神様は私を大なる国民の父とする、とおっしゃられたのだ。しかし、今の私にあるものと言え、この老いぼれた身体と年老いて子供の産めない妻、そして羊の大群のみだ。

アブラハムよ、恐れてはならない。わたしはあなたを守り、あなたに豊かな報いを与える。

私には子供がありませんのに、どのような報いをお与えになるとおっしゃるのでしょうか？



あなたとサラは子供を授かるのだよ。



あなたの仰せの通りになると私は信じます。

アブラハム、来るが良い、星が見えるであろう。数え切れない星か...あの星のように、数え切れないくらいの子孫に恵まれるであろう。

あなたはわたしを信じたので、わたしはあなたを義と認める。やがてあなたの子孫は、見知らぬ土地において寄留者となり、400年の間奴隷としてその国に仕えることになる。しかし、わたしがその国を罰し、必ず彼らを救い出そう。彼らは多くの富を携えて、この約束の地に戻って来るのだ。



約束の子はどこなの？  
私は日に日に年老いていくわ。  
あなたもやがて種を残すことが  
できなくなる。アブラハム、  
私はあなたに子供を与えて  
あげられないのよ。



この土地の習慣  
として、召し使いに  
子供を産ませる手が  
ありますよ。



アブラハム、分からない  
のですか？こんな機会は一  
度もありません。手遅れに  
なる前に彼女に子を産ませ  
るのです。あなたの子孫な  
のですよ。神も望んでおら  
れるはず。あなたが偉大な  
国の父となるにはそれしか  
ありません。



そう、そうする  
しかないのです。

その時アブラハムは、神に  
祈らなかった。神の約束を  
忘れ、妻の言葉のみに聞き  
従ってしまったのだ。

数ヶ月後

私は  
アブラハム様  
の子を産む  
のだわ。

ハガルは、自分がアブラハムの子を宿したことを知ると、得意げになり、サラを見下すようになった。サラは妬みを覚え、気持ちが悪くなっていった。

サラはハガルを冷たくあしらい、きつい仕事をさせた。神は一人の男が複数の妻を持つことや、側室に子供を産ませることは意図しておられなかった。

水汲みが終わったら、次は薪割りよ！

ハガルは逃げる決心をした。

ハガルはサラのもとから逃げ去り、荒野へ向かった。歩き疲れてもうこれ以上前へ進めなくなったハガルは、とうとうその場に倒れ込んでしまった。そんなハガルの苦悩をご覧になられた神は、彼女に語りかけられた。

ハガルよ、サラのもとに帰りなさい。そして、彼女のもとで身を低くしなさい。あなたはみごもり、男の子を産もうとしている。その子をイシュマエルと名づけなさい。主があなたの苦しみを聞き入れられたから。

あなたの子孫は、わたしが大いにふやすので、数えきれないほどになる。彼は野生のろばのような人となり、その手は、すべての人に逆らい、すべての人の手も、彼に逆らう。彼はすべての兄弟の近くに敵対して住もう。

ハガルは家に戻り、やがて子供が生まれた。

神は、アブラハムの子である以上、この子は多くの国の父となるとおっしゃいました。

イシュマエルは後に、アラブ諸国の父となる。

アブラハムが86歳の時にイシュマエルが生まれた。イシュマエルの誕生から間もなくして、アブラハムはもはやこれ以上子供を作ることができないほどに年老いてしまった。神がアブラハムに約束した子供とは、イシュマエルのことだったのだろうか？しかし神は、アブラハムとサラの間に子供が生まれるとおっしゃはずなのだが。。

イシュマエルが13歳、アブラハムが99歳の時、神は再びアブラハムに語りかけられた。

アブラハム、わたしは全知全能の神である。わたしの言うことに耳を傾け、罪を犯してはならない。わたしが以前あなたに伝えたように、わたしはあなたの子孫をおびたたくふやし、あなたは多くの国民の父となる。わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に、そしてあなたの後のあなたの子孫との間に立てる。

アブラハムとサラが、子供をもうけることが出来ない年齢まで年老いてしまった今、神はどのようにしてご自身の約束を成就されるのであろうか。

わたしは、カナンの全土を、あなたと、あなたの後のあなたの子孫に永遠の所有として与える。私が約束した通り、サラはみごもり、あなたに男の子を産む。わたしは彼を大いなる国民としよう。

いや、わたしが初めからそう言っておいたように、あなたとサラが、自身の身体を通して子供をもつのだ。イシュマエルではなく、その子を通して祝福の契約が受け継がれていく。来年の今ごろ、サラはあなたに男の子を産むであろう。

はっはっは。。  
99歳の私と89歳のサラの間に子供が生まれましょうか。私の身体はもう死んでも同然です。子供などもてるはずもない。どうかイシュマエルが、約束の子としてあなたの御前で生きながらえますように。

そんなことが可能なのだろうか。。。いや、主に不可能なことがあるか！人間をお造りになられた神様は、この老いたふりに子供を与えることもおできになるのだ！

アブラハムは、彼らが近づいて来るのを目にし、少し様子が違う人たちだなとは思ったものの、彼らがこの地上に属する者達ではない、ということにまだ気がついていなかった。

数日たって、砂漠の向こうから、3人の人がアブラハムの所にやってきた。彼らは遠くから旅してきたように見えなかったが、近郊に住む者のようでもなかった。彼らは強く、自信に満ちた様子で、老いと無縁のようにも見えた。

彼らのうちのふたりは、義なる天の使いで、もうひとり、アブラハムと話をするために、高潔な天の使いのような姿を身にまとして下ってこられた。神ご自身であった。アブラハムはかけよって彼らを出迎えた。



アブラハム、お前の妻サラは息子を授かるであろう。

あはははは。。

老いぼれてしまったこの私に、何の楽しみがあるろう。それにアブラハムも年寄りで。



神が、サラは子供を授かると申しておるのに、なぜサラは笑うのか？

私は笑ってなどおりません。

いや、確かにあなたは笑った。なぜあなたは信じないのか。神に不可能なことがあるうか。わたしは、定めた時に、あなたのところに戻ってくる。その時、あなたには男の子ができています。



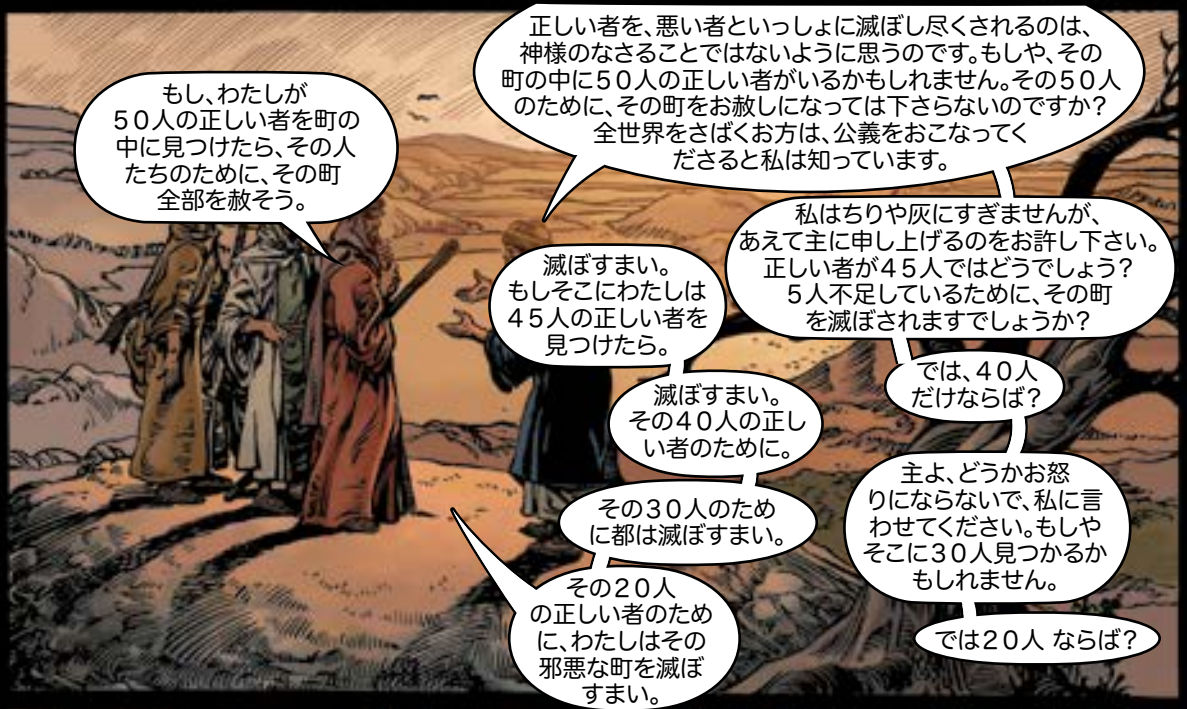
はい、彼は知っておく必要があります。

わたしがしようとしていることを、アブラハムに隠しておくべきだろうか。アブラハムは必ず大なる国民の父となり、彼はその子供達や子孫に、神に従うことを教えていくのだ。



ソドムとゴモラの叫びは非常に大きく、また彼らの罪はきわめて重い。わたしはすべてそこに住む者、男も女も子供も、すべて滅ぼそう。

しかし、私の牝の口とその家族は、そこに住んでいるのです。



もし、わたしが  
50人の正しい者を町  
の中に見つけたら、その人  
たちのために、その町  
全部を赦そう。

正しい者を、悪い者といっしょに滅ぼし尽くされるのは、  
神様のなさることではないと思うのです。もしや、その  
町の中に50人の正しい者がいるかもしれません。その50人  
のために、その町をお赦しになっては下さらないのですか？  
全世界をさばくお方は、公義をおこなって  
くださると私は知っています。

滅ぼすまい。  
もしそこにわたしは  
45人の正しい者を  
見つけたら。

私はちりや灰にすぎませんが、  
あえて主に申し上げるのをお許し下さい。  
正しい者が45人ではどうでしょう？  
5人不足しているために、その町  
を滅ぼされますでしょうか？

滅ぼすまい。  
その40人の正し  
い者のために。

では、40人  
だけならば？

その30人のため  
に都は滅ぼすまい。

主よ、どうかお怒  
りにならないで、私に言  
わせてください。もしや  
そこに30人見つかるか  
もしれません。

その20人  
の正しい者のため  
に、わたしはその  
邪悪な町を滅ぼ  
すまい。

では20人 ならば？



主よ、どうかお怒りにならないで、今一度だ  
け私に言わせてください。もしやそこに、10人の  
正しい者が見つかるとしたらどうでしょう？  
その町を滅ぼされますか？

滅ぼすまい。  
その10人の正し  
い者のために。

もし、10人  
も善良な者たちが見つからない  
としても、どうかお願いします、  
私の甥の口には警告してい  
ただけないでしょうか？

今夜、わたしたち  
は彼を訪ねる予定だ。



夕方、二人の天の使い  
はその町を訪れ、口の  
家の近くを歩いた。

これは異常としか  
言いようがない。想像  
した以上にひどい。

子供や動物で  
さえ、神が滅ぼさ  
れようとする事が、  
これで理解できる。



旅のお方よ、  
夜の通りは危険ですよ。  
一晩、我が家で過ごされ  
てはいかがかな。

おい、なか  
な魅力的な奴  
らだぜ。町の  
奴らに知らせ  
てやるか。





ロト、そいつらを外へ出せよ!俺たちは、そいつらと、いいことをしたいんだ。

あいつは自分を何様だと思ってるんだ?

あっちへ行け!お前たちの好きにはさせんぞ!

ドアをぶち破るぞ!よそ者め、ひどい目にあわせてやる!

おい、お前の娘など用はないんだ!その、かわいい男達が欲しいんだよ!

あいつはおれたちのことを心底嫌ってやがる!



主なる神が、あなたがたの光を奪われます。

奴らはどこだ?

み、みえない!何が起ったんだ?

なんで、こんなに暗いんだ?

あの力は一体全体、何なんだ?




あなたがたは、この町を去らなければならない。警告したい人には伝えなさい。義なる神は、もうこれ以上この町の罪を黙認されることはありません。

明日、神はこの町に火の雨を降らせるおつもりだ。ソドムとゴモラに住む人間は、すべて死ぬ。




急ぐのだ、火はすぐに降ってくる。誰も助からないぞ。

神は、町が火に包まれようとも、決して後ろを振り向くなとおっしゃった。



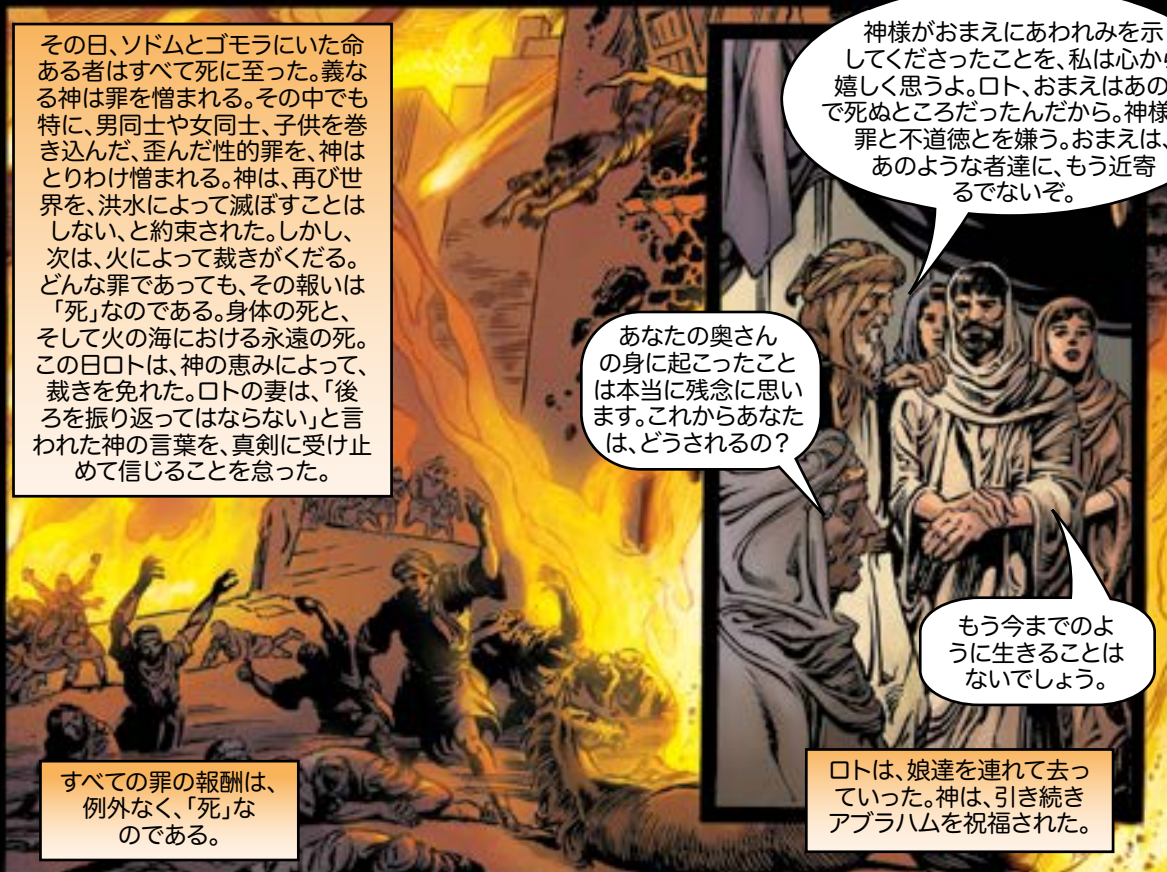
振り向くん  
じゃない!

ひいひい〜っ!



大変!お父さん、  
お母さんが神様に背いて  
後ろを振り返ってしまった  
わ!そして塩の柱にな  
ってしまった!

見るんじ  
ゃない!前へ  
進むんだ!



その日、ソドムとゴモラにいた命ある者はすべて死に至った。義なる神は罪を憎まれる。その中でも特に、男同士や女同士、子供を巻き込んだ、歪んだ性的罪を、神はとりわけ憎まれる。神は、再び世界を、洪水によって滅ぼすことはしない、と約束された。しかし、次は、火によって裁きがくだる。どんな罪であっても、その報いは「死」なのである。身体の死と、そして火の海における永遠の死。この日ロトは、神の恵みによって、裁きを免れた。ロトの妻は、「後ろを振り返ってはならない」と言われた神の言葉を、真剣に受け止めて信じることを怠った。

神様がおまえにあわれみを示してくださったことを、私は心から嬉しく思うよ。ロト、おまえはあの町で死ぬところだったんだから。神様は、罪と不道徳とを嫌う。おまえは、あのような者達に、もう近寄るでないぞ。

あなたの奥さんの身に起こったことは本当に残念に思います。これからあなたは、どうされるの?

もう今までのように生きることはないでしょう。

すべての罪の報酬は、例外なく、「死」なのである。

ロトは、娘達を連れて去っていった。神は、引き続きアブラハムを祝福された。

神は、サラが子供を授かる、と約束された。アブラハムとサラは、長いこと忘れていたお互いへの熱い思いが、よみがえってくるように感じた。



アブラハム、どうなさったの？そのような目で私を見つめて下さることは久しくなかったことですね。



それはまさに奇跡だった！やがて人々は、サラが身ごもったことを知った。

神様が言われた通り、この子をイサク\*と名付けよう。この子はやがて、大いなる国民の父となるのだ。



はい。。。私が子を産むと神様がおっしゃった時、私は笑いました。この歳になって自分の子供に乳を飲ませることになるだなんて、誰が信じましょう？

神は約束を守られた。神は常にそうされるお方なのだ。

ハガルが生んだアブラハムの子、イシュマエルは14歳となっていたが、この新しく生まれた赤ん坊を嫌っていた。




この愚かな少年は、私をバカにしているわ。私の大切なイサクを、エジプト人のいる家の中で、育てられるわけがないのよ。

このはしためを、その子と一緒に追い出してください。このはしための子は、約束の子である私の子、イサクと一緒に跡取りになるべきではありません。




神はアブラハムに語りかけられた。「サラの言う通りにしなさい。ハガルとイシュマエルを去らせなさい。イシュマエルはイサクとともに相続人となるべきではない。そして、そのことについて悲しんではならない。わたしが彼らを養おう。イシュマエルもあなたの息子であるため、わたしは彼も、ひとつの国民としよう。しかし、サタンを打ち負かす約束の救い主は、イシュマエルではなくイサクの子孫から現れる。

イシュマエルは成長しアラブ諸国の父となり、イサクはユダヤの人々の長となった。アラブとユダヤの人々は異母兄弟というわけである。



アブラハムは息子のイサクを可愛がり、お互いになくってはならない存在となっていた。

奇跡の子よ。お前がこの世界を罪から救ってくれるのかい？




お父さん、どうして可愛い子羊を殺して、岩の上なんかで焼くの？

天と地の神様は、とても清く聖なるお方なんだよ。お父さんのような罪人とは比べものにならないくらい、聖なるお方なんだ。この地に生まれた最初の人、アダムは、神様に逆ってしまった。


お父さんが子羊をほふるのは、神様におささげするためなのだよ。それはね、この私の罪を認めます、罪のない子羊を私の身代わりとしてほふり、おささげします、という信仰告白の儀式なんだ。

その時から人間は、罪を背負っているんだよ。神様はアダムに、罪を犯したら死んでしまうとおっしゃっていたのに、アダムは罪を犯してしまった。そんなアダムに神様は、身代わりとして動物をほふり、その皮を用いて、彼らの恥じる心をおおってくださったんだよ。




アブラハムよ。あなたの愛している、ひとり子イサクを連れて、彼を全焼のいけにえとして、わたしにささげなさい。

イサクは強く丈夫な子に成長し、父親が礼拝する神を信頼することを学んでいった。アブラハムは息子を心から愛した。彼らはしばしば共に礼拝へ向き、子羊の全焼のいけにえを神にささげた。



神様、なぜそのようなことをおっしゃるのですか？あなた様らしからぬことではありませんか。人間のいけにえなんて、それは異端者のすることです！私の息子イサクを、大いなる国民とする、と約束されたではありませんか。もし私が息子の命を奪ってしまったら、あなた様の約束が成就しなくなってしまいます。。



しかしあなた様は神であられます。私には理解できませんが、私はあなた様に従います。



片道3日の旅になる。1週間ほど留守にするよ。

どうぞ、お気をつけて。あなた方、二人の為に祈りをささげましょう。



3日後

お父さん、山が見えてきましたよ。日暮れまでには、たどり着けますね。

ああ、そうだね。あそこで礼拝をささげたら家に帰ろう。



お父さん、木々はこうして運んできましたし、祭壇も築きました。でも、いけにえはどこですか？

イサク、覚えているかい？以前神様が、年老いた私達に子供を授ける、とお語りになったという話を。神様は再び私にお語りになったんだ。



今回神様は、イサク、お前を全焼のいけにえとしてささげなさい、とおっしゃったんだ。

私を？お父さん、それは確かなことなの？




神様は私を、大いなる国民の父とし、空に浮かぶ星の数ほどの多くの子孫を生み出すようにする、とおっしゃったのではないのですか？神様の約束はどうになってしまうのでしょうか？

でも、私が死んでしまったら、いったいどうやって？

お父さん、何が起ころうとも、私達は神様に従うべきですよね。


私は、神様は約束されたことを必ず成し遂げられる、ということを知ってきた。だから、もし神様が私を大いなる国民の父とする、と仰せられるのなら、必ず神様はそうなさるはずだ。例えお前が死んだとしても。

分からない。。。おまえを死からよみがえらせてくださるのかもしれない。




アブラハムは、神に従い、全焼のいけにえを捧げる手順にとりかかった。しかし、彼の心は悲しみにあふれ、その手はふるえていたに違いない。


彼は、息子の手足を縛りつけ、祭壇の上に横たえた。次の行程は息子の喉にナイフをあてがいが引き裂くことだった。




神への信仰とともに祈りをささげながら、アブラハムはナイフを振りかざした。その手をイサクに向けて振り下ろそうとした、まさにその時、天から声が響いた。




アブラハム！  
アブラハム！  
その子を傷つけてはならない。



今、わたしは、あなたが神を信頼していることがよく分かった。あなたは、あなたのひとり子でさえ、惜しまないでわたしにささげようとした。



アブラハムが目を上げてみると、角をやぶにひっかけている一頭の雄羊がいた。



アブラハムよ、あなたが、このことをなし、あなたの子、あなたのひとり子を惜しまなかったから、わたしは確かにあなたを大いに祝福し、あなたの子孫を、空の星のように数多く増し加えよう。そしてあなたの子孫は、その敵を滅ぼすであろう。まだ見ぬあなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。

お父さん、見て、神様は私の代わりに雄羊を与えてくださいました！

お父さん、お父さんの言う通り、神様は本当にあわれみ深いお方です！



アブラハムは、イシュマエルとイサクという二人の息子を持った。神は、アブラハムと結んだ約束を受け継ぐ子供として、イサクを選ばれた。イサクは後に、イスラエルと呼ばれるヤコブをもうけた。やがてヤコブには、12人の息子が授かった。ヤコブとその12人の息子達は、それぞれの家族を連れてエジプトへと移住することになる。そしてその地で、彼らの子孫は奴隷民族となっていた。(紀元前1706年)

ヤコブの12人の息子から、12の部族が誕生した。

イシュマエルは、12人の息子を持ち、それぞれが族長となった。そして後に彼らは、アラブ人と呼ばれるようになった。

イシュマエル

アブラハム

イサク

ヤコブ